

Spring Has Come! 桜の開花

各民間気象会社3社（日本気象協会・ウェザーマップ・ウェザーニューズ）がソメイヨシノの開花予想を毎年発表している。桜の開花は春の訪れを感じることのできる代表的な植物で日本人の心を晴れやかにさせ、また入学時期と重なり新たな門出を祝う花としてもとても風情があつてよきものだ。

今年のソメイヨシノの開花が一番早い可能性がある地区として民間気象会社の予想では3月20日の高知県となっていたが、鹿児島市、熊本市、名古屋市で3月21日に、22日に高知市、23日に東京都で開花宣言がなされた。全国的に開花は「平年並みか早い」という予報となっている。今年の冬は12月に強い寒波があつたため花芽は順調に休眠から覚めた地域が多いとされている。2月の気温は北日本で高く九州を除いて平年並みか高くなった。現在、九州で取れている野菜の価格が2～4割高くなっているのはこの影響を受けている。3月に入って東北・北海道では暴風雪に見舞われ寒の戻りがあつたが、中旬以降は気温が高く推移し上述のような予報となっている。

桜の開花日は標準木が設定されており5～6輪咲いた状態となった最初の日を指す。気象庁では観測が続けられている各地域の気象台内やその周辺に植えられている桜の木を標準木として設定しており、東京都では靖国神社内の能舞台横にあるソメイヨシノが標準木となっている（右下写真撮影3月24日）。今回国内1番目に開花した鹿児島市と名古屋市は気象台の敷地内に、熊本市は古町小学校にある。いずれも平年より2～5日開花が早かったようだ。満開日は標準木が80%以上のつぼみが開いた状態を指している。ソメイヨシノが生育しない沖縄奄美地方ではヒカンザクラ、北海道オホーツク海沿岸や釧路地域ではエゾヤマザクラを観測しており、ヒカンザクラ

は1月中旬（今年の最も早い開花日は石垣島で1月6日、平年より10日早い開花）から開始し、エゾヤマザクラは5月中旬（昨年の最も遅い開花日は釧路で5月12日）と約5か月間に渡り桜前線が北上していき、桜を追って旅をするのもとても風情があつてよいかも知れない。気象庁では桜だけでなく季節観測として観察する対象の動植物を定めて実施している。植物としては桜の他にウメ、アジサイ、イチヨウ、カエデがあり動物はウグイス、ツバメ、モンシロチョウ、ホタル、アブラゼミが対象観察となっている。さて、今年は平年並みの開花予想となっており春を迎えることとなったが一方で肥料の方はというと春本番とはいかず前年の消費税のアップによる出荷前倒しの反動と前例にない米価の低迷により出荷の方は順調とはいえないようだ。肥料商にとっても穏やかな春が来ることを願わずにいられない。



東京の標準木（靖国神社）
3/24時点の桜の様子



第 13 回トモエときわ研修会開催

去る 2 月 12 日～13 日、札幌ガーデンパレスホテルにおいて第 13 回トモエときわ研修会が盛大に開催された。トモエときわ研修会は 2004 年に第 1 回が開催されて以来、北海道トモエ肥料販売協同組合（以下北肥協）のメンバーが一同に会し、一年間のメンバー各社の販売・試験活動の発表・質疑応答の場となっている。本会の特徴として、メンバー各社の若手が研修会準備委員となり企画、立案、運営、司会進行等が進められ、事務局はあくまでもサポート役として研修会を作り上げる事があげられる。特に各社の試験成果発表では、厳選された成果発表についての活発な意見交換が行われるよう司会役は会社を超えて情報交換をし、事前準備を行うことにより北肥協の一体感が生まれている。今回はメンバー各社総勢 48 名が参加し、2 日間に渡り盛んに議論が行われた。



1 日目は、北海道トモエ肥料販売協同組合 武蔵理事長（武蔵商事㈱代表取締役社長）のご挨拶により開幕。続いてトモエ肥料販売連合会 山本局長、エムシー・ファーティコム（株）佐藤支店長より開会の挨拶があった。続いて昨年実施されたタマネギ・大豆・大根・馬鈴薯・水稻・小豆・スイートコーンについての試験成果発表が行われた。研修会講演として、三菱商事（株）北海道支社化学品グループ吉田リーダーより「肥料原料情勢」についてご講演頂き、当社藤田札幌支店長より「北海道の肥料流通について」の講演があった。第一日目終了後の懇親会場では、北海道米の試食会が開催され、道内 5 銘柄の食味について参加者の味覚が試された。

2 日目は、北肥協全体の活動である「ときわ拡販活動（ときわ拡販委員会）」について発表された。ときわ化研（株）代表取締役渡辺社長、北肥協拡販推進部照井部長（㈱愛農代表取締役社長）よりご挨拶があり、続いてときわ拡販委員会島倉委員長（㈱愛農）より各社の活動方針と進捗状況について発表がされた。今回の新たな取り組みとして、過去 12 回の試験成果発表について、その成果と現状が当時の担当者より発表があった。過去の試験が、現在の販売活動に繋がっており、試験成果発表の効果を実感できたのではないだろうか。

最後のプログラムとして、エムシー・ファーティコム（株）技術普及グループ庄司担当よりトモエ品について講演があり、ベストプレゼンと味王が発表され、以上を持って第 13 回トモエときわ研修会は盛大に幕を閉じた。盛りだくさんとなった今回研修会であったが、様々な観点から拡販へ向けてのメンバー各社の意気込みが伝わってくる研修会であった。紙面をお借りしまして、本会の準備にご協力をいただきましたメンバー各社の皆様、そして準備委員の皆様にお礼申し上げます。

クリオネ通信



今回は北海道の花粉症事情をご紹介します。北海道ではスギの分布が限られているため、スギ花粉症は少ないですが、シラカバやハンノキといったカバノキ科の花粉症が増える傾向です。また、イネ科やヨモギの花粉もありますので、スギ花粉症からは逃れられてもほかの花粉症になってしまうかもしれません。ちなみに筆者はイネ科の花粉症のため 6 月頃が花粉症の季節です。すでに関東地方では花粉が多く観測されているようです。花粉症の皆様どうかご自愛ください。

桜が開花したと思ったら寒の戻りで肌寒い日々が続いています。開いた花びらも驚いているかもしれませんね。季節の変わり目で体調を崩しがちだと思いますので、皆様もお気を付けください。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>